

だいでう豊里駅(地下鉄今里筋線) 応神天皇ゆかりの地を歩く

瑞光四丁目駅(地下鉄今里筋線)

「大阪あそ歩マップ集」
その2 No.053



地下鉄だいでう豊里駅

①大宮

『日本書紀』535年の9月に「牛を難波大隅嶋と媛嶋松原に放て」という記事があります。当時の天皇・安閑天皇によってこの付近の土地の発展がもたらされたことから、大宮では同天皇を主祭神としています。大宮の社殿は、淀川改修前までは旧淀川の右岸堤に面して所在し、古木茂る厳かな森であったと伝えられています。森は旧淀川を上る船の燈台の役割も果たしました。淀川改修によって境内は河川敷となったため、老木・竹藪を伐採して現在地に遷座することになり、また、氏地の大半は川底に沈み、氏子は新淀川兩岸に住み分かれることになりました。



②大澤寺

正保3年(1646)に沢田家出身の僧・宗純(俗名・沢田太郎左衛門)が開いたお寺です。酒井雅楽頭と親しかった沢田太郎左衛門は大坂夏の陣で徳川方に味方し、その恩賞として平田の渡しを含む淀川16カ所の渡船権利を与えられました。12代当主より沢田左平太を通称としたので、平田渡しは平太渡しと記されることがあります。中島大水道開削に尽力した三庄屋の一人、沢田久左衛門も沢田家の出身です。

③乳牛牧跡

味原牧とも呼ばれた乳牛牧は、律令制下、宮内省典藥寮所属の牧で、乳牛を飼育したことから乳牛牧と呼ばれました。後鳥羽天皇はこの地の黄牛の乳を薬として飲んだところ病気が治ったと伝えられています。牧では、牛を飼育し、牛乳や蘇、酪を貢納しました。乳製品を食する習慣は、朝鮮半島より伝えられて古代貴族に始まりましたが、一般社会に広まることはなく、平安時代を過ぎると食習慣から消えてしまいました。



④大隅神社

大隅島に大隅宮を置いた応神天皇が崩御した後、宮址に神祠を建てて奉祀したのが神社の起源であるといわれています。以来、この地の産土神として尊崇されてきましたが、淀川が氾濫した際に賀茂明神のご神体が漂着したのを機に、これを合祀して社名を賀茂神社と改めるとともに、社殿を2つに分けて、ひとつは別雷大神、ひとつは応神天皇を含む八柱の神を合祀しました。明治4年(1871)、旧に復して応神天皇を主祭神とし、社名を大隅神社と改めました。いまま地名に残る大隅は、大隅宮の置かれた地としての有力な証拠です。

⑤逆巻地蔵

淀川を行き来する船にとって、逆巻は難所として有名でした。この場所は水流が激しく、帆を逆に巻き付けなければ転覆してしまうと恐れられていたのです。水死者供養と安全運航を祈願して江戸時代末期に地蔵が安置され、大正12年(1923)に現在地に移されました。

地下鉄瑞光四丁目駅

